



令和 5 年 3 月 24 日
北 九 州 市
環境局再生可能エネルギー導入推進課

脱炭素先行地域の取組状況を報告します！！

本市は、令和 4 年 4 月に、国から地域特性等に応じて先行的に脱炭素に向けた取組を行う「脱炭素先行地域」に選定され、太陽光パネル等を第三者所有方式で導入する「再エネ 100%北九州モデル」を活用して、再エネの安定的かつ安価な供給モデルの構築を目指しています。

この度、下記のとおり令和 4 年度の取組状況について報告しますので、是非、取材いただきますようお願いいたします。

記

1 現地説明会について

(1) 太陽光パネル・定置型蓄電池設置施設

日 時：令和 5 年 3 月 30 日（木） 13：30～14：30

場 所：日明市民センター（北九州市小倉北区日明 4 丁目 3-7）

内 容：導入設備の概要及びそれを用いたエネルギーマネジメント手法などのご説明をさせていただくとともに、設置された設備を撮影いただけます

(2) リユースパネルを活用した実証事業

日 時：令和 5 年 3 月 30 日（木） 15：00～16：00

場 所：響灘ビオトープネイチャーセンター横（北九州市若松区響町 1 丁目 126-1）

内 容：実証事業の目的・実施内容などの詳細をご説明させていただくとともに、設置された設備を撮影いただけます

2 添付資料

(1) 脱炭素先行地域の概要と令和 4 年度の実施状況について（別紙 1）

(2) リユースパネルを活用した実証事業の概要について（別紙 2）

問合せ先

北九州市環境局 再生可能エネルギー導入推進課

担当：塩田、岡田、柿木

TEL：093-582-2238

脱炭素先行地域の概要と令和 4 年度の実施状況について

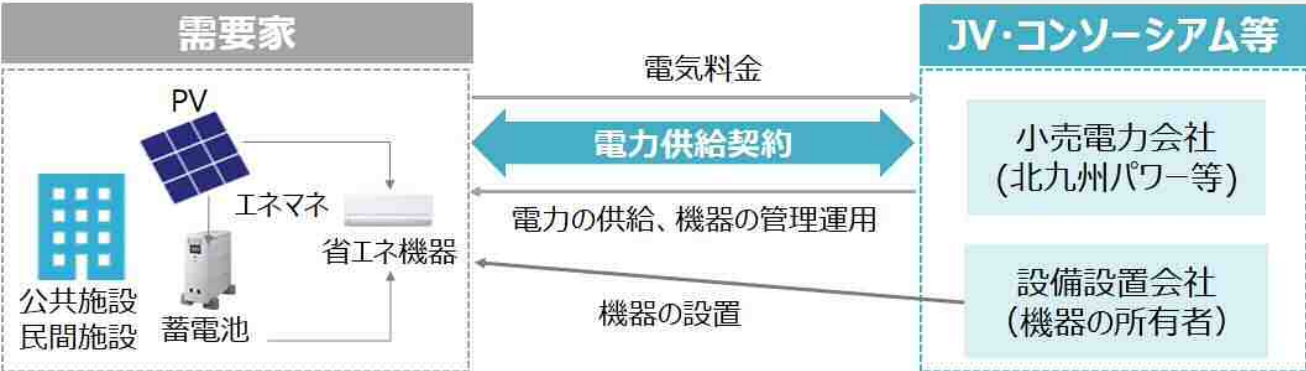
1 脱炭素先行地域について

脱炭素先行地域とは、2050 年カーボンニュートラルに向けて、地域特性等に応じて脱炭素に向かう先行的な取組を実施し、民生部門（家庭部門及び業務その他部門）の電力消費に伴う CO2 排出の実質ゼロを実現する地域のこと。環境省は、2025 年度までに少なくとも 100 か所の脱炭素先行地域を選定し、「脱炭素ドミノ」のモデル構築を行う。

2 本市の提案内容

北九州都市圏域 18 市町で連携を図り、公共施設群と北九州エコタウンのリサイクル企業群において、第三者所有方式を活用して太陽光パネル（PV）等を導入することで、最速かつ最大の再エネ導入モデルの構築を目指す。

第三者所有方式のイメージ図



- ◎計画期間 : 令和 4 年度から約 5 年間
- ◎再エネ導入量 : 圏域全体で最大約 37MW
(本市公共施設には約 290 箇所太陽光パネルの導入を目指す)
- ◎事業規模 : 総事業費として最大約 97 億円
(そのうち 50 億円は、国からの交付金を活用予定)

3 令和4年度の実施状況

(1) 第三者所有方式を活用した太陽光パネル等の導入 (※) ←---

3月30日 説明会
@日明市民センター

- 17の公共施設等に太陽光パネルを導入
(設備設置会社はオムロンソーシアルソリューションズ(株)、(株)VPP Japanの2社)
 - そのうち、市民センター14施設を含む計15施設に定置型蓄電池を併設
 - 34の公共施設に省エネ機器(高効率空調機器、LED)を導入
- ※設置工事が遅れており、全施設への設置完了は令和5年度となる見込み

(2) コスト低減に向けた取組【別紙2参照】←---

3月30日 説明会
@響灘ビオトープ

- リユースパネルを活用した実証事業の開始

詳細はこちら!



(3) 公共施設への再エネ100%電力の導入状況

- 本市は586施設に再エネ100%電力を導入済み(削減効果:約10,500t-CO₂/年)
- 圏域全体では625施設に再エネ100%電力を導入済み(削減効果:約10,900t-CO₂/年)

(4) 公共施設のZEB化

- 2施設について、ZEB化の基本設計を実施
(上津役出張所、松ヶ江北市民センター)

<参考> 日明市民センターへの設置設備の概要(以下の設備は、当日ご撮影いただけます)

太陽光パネル 容量:12kW

定置型蓄電池 台数:1台(16.4kWh)



リユースパネルを活用した実証事業の概要について ～第三者所有方式による自家消費型太陽光発電実証～

1 目的

- FIT（固定価格買取制度）期間満了後のメガソーラーの有効活用
- 第三者所有方式でのリユースパネルの導入モデルの構築と課題整理
- リユースパネルの活用手法に関する仕組みの検討

2 実証概要

(1) 実証場所

響灘ビオトープネイチャーセンター横の広場

(2) リユースパネルの出力と状態

出力：5kW 状態：利用開始から約10年経過したパネルを使用

(3) 実証内容

○発電効率の評価検証

- ・リユースパネルの損耗、劣化率を検証し、発電効率を定量評価

○経済性評価検証

- ・リユースパネルのコストを定量評価

(4) 実施体制（参画企業）

株新菱、株北九州パワー、東京センチュリー(株)、北九州市

(5) 実証設備

